



ハイライトよねやま 122

1 寄付金速報 — 2009-10年度も残り3カ月を切りました —

3月までの寄付金は、前年同期と比べて13.3%減、約1億7千万円の減少となりました。普通寄付金が1.9%減、特別寄付金が18.7%減とここ数ヶ月は大きな状況変化はありません。

今年度まだ普通寄付をご送金いただいていない約160のクラブ会長宛に「2009-2010年度普通寄付金送金のお願い」を3月12日付でお送りしましたが、4月6日現在、まだ84クラブから納入いただいております。普通寄付金は当奨学会の安定的な財源となっています。特別寄付金が伸び悩む中、奉仕の実践として、普通寄付金の送金をぜひともよろしくお願ひ申し上げます。

2 新奨学生のオリエンテーションがスタート

2010学年度の奨学生は826人（休学による延長者3人を含む）となりました。国籍・地域別では中国が402人、韓国116人、台湾51人、その他257人です。奨学金種類別では、修士課程が最も多く374人、次いで博士課程215人、学部課程203人、そのほか地区奨励奨学生、クラブ支援奨学生などがいます。

4月11日を皮切りに5月中旬にかけて、各地区で新規奨学生のオリエンテーションが開催されます。今年度のオリエンテーションでは、DVD「すばらしい贈り物」を上映し、世話クラブ・カウンセラー制度の意義を新奨学生に理解してもらうよう呼び掛けています。また、今年度からは、奨学期間終了後も近況や移転先をカウンセラーに知らせることを確約書に記載し、約束事項として説明していただくことになっています。説明用パワーポイントはガバナーエレクト事務所および地区米山奨学委員長宛てにEメールで送信していますので、ぜひご活用ください。オリエンテーションの席上で確約書に署名をした後、正式な米山記念奨学生となります。どうぞ温かくお迎えくださいますようお願いいたします。

3 米山奨学生・学友の博士号取得状況



今年も卒業式を終えた学友から、博士の学位を取得したとの報告が続々と届いています。2009学年度（2009年4月～2010年3月）に博士号を取得した奨学生・学友は48人、累計では3,196人です（4月9日現在）。博士号取得者には、米山記念奨学会からお祝いの腕時計をお贈りします。すでに奨学期間を終了した学友も対象ですので、ぜひ事務局までご報告ください。

米山奨学生・学友が博士号を取得したら…？

「学位記」か「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へFAXしてください(FAX:03-3578-8281)。 ※国内のみの発送となります

お知らせ

奨学生・カウンセラー必携ハンドブック

【奨学生ハンドブック】 新規奨学生には合格通知と一緒に大学経由で、継続奨学生には世話クラブへ3月末送付済みです。奨学生としての心得のほか、帰国届や奨学生レポートなど届出書類が付いています。

【カウンセラーハンドブック】 初めてカウンセラーをされる方も、すでに経験されている方も必ずお読みください。カウンセラーの体験談や困ったときのQ&Aが満載です。クラブへ送付済みです。

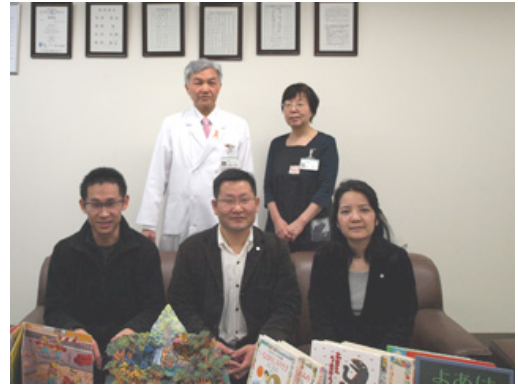


4 新世代の学友が力を合わせて社会奉仕【第 2590 地区】

第 2590 地区（神奈川県）の米山学友会では、昨秋からロータリー財団学友会と協力して社会貢献活動を企画。3月23日に神奈川県立こども医療センター（神奈川県横浜市）を訪問し、療養中の子どもたちのためにと、学友らが集めた世界中の絵本 150 冊を寄贈しました。

同センターの入院患者には、日本語や英語を読めない子ども達もいるため、「いろいろな国の絵本があればありがたい」との関係者の話を受け、両学友会では西洋の絵本 50 冊、アジアの絵本 30 冊、日本の絵本 70 冊を集め、これらの絵本を収納する図書室用のブックワゴンと合わせて寄贈しました。第 2590 地区米山学友会の田 鎬鎮^{ジョン ホジン}さんは、

「病院にはまだまださまざまなニーズがあるので、コンサートの企画や翻訳など、今後も私たちならではの支援を計画中。ロータリー財団・米山の学友は、共に留学経験があり、自分たちが受けた恩恵を他の人に返していきたいという気持ちは共通しているので、ローターアクトも含めた新世代のネットワークをつくり、いろいろな活動を一緒に作り上げていきたい」と抱負を語っています。



こども医療センターに絵本を贈呈する
米山学友会・R 財団学友会の代表者(前列)

5 チューク出身の奨学生が母国のロータリアンらと交流

宇都宮大学大学院に学び、今年 3 月に 1 年間の米山奨学期間を終了したスエナガ・クニオさん（2009-10 年／宇都宮陽南 RC）は、ミクロネシア連邦出身初の米山記念奨学生。彼の生まれ育ったチューク州は、第 2750 地区（東京都）のパシフィックベイシンググループ（PBG）に属することから、2月24日、同地区の地区大会に合わせて都内で開催されたPBGフォーラムに、スエナガさんもゲストとして参加。第 2750 地区のロータリアンには、チュークを訪問したことのある人も多く、母国の話題で、多くのロータリアンとの交流を深めました。



トラックラグーン RC メンバーとスエナガさん(左)

当日のフォーラムのテーマは、「家族・コミュニティをつなぐ輪 ——昔から慣れ親しんだ子供達の遊びを通して——」。来日したチュークのトラックラグーン RC メンバーとは旧知の間柄であることもあり、スエナガさんは、同クラブのプレゼンテーションの通訳を担当。日本の陣取りに似た母国の遊びを解説し、デモンストレーションゲームにも参加して交流を楽しみました。スエナガさんは今秋、修士課程を卒業し、その後は駐日ミクロネシア連邦大使館（東京都港区）に勤務する予定です。



たくさんのお申し込みありがとうございました
— 中国学友会総会・懇親会 in 上海 —



ハイライトよねやま 119・120 号でご案内していた、7 月 17 日に上海で開催される中国学友会総会・懇親会は、お陰さまで 200 人を超えるロータリアンからお申し込みをいただきました。ありがとうございました。なお、米山奨学会のツアー参加者の皆さまには 4 月中に旅行のご案内をお送りいたします。